

## 本年度の学校評価

本年度の重点目標	自ら進んで仲間と共に夢の実現に取り組む生徒を育成する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務	地域への情報発信	・ KOHTA NEWSの特別号などを発行して、本校の魅力を中学校等へ発信する。	・ 生徒の活動を見守りつつ、その成果を近隣中学、地域住民に発信する。
	周年事業に向けて同窓会との連携及び各分掌との協力	・ 今年度が50周年記念事業の年となり、今まで以上に同窓会との連携を図り、式典、記念講演、記念誌の準備を進める。また、他分掌と協力しながら、地域に50周年をアピールする。	・ 同窓会との連携をとる。 ・ 校内関係分掌との連携を強化し、準備を進め、記念事業を成功させる。
教務	地域と連携した教育活動	・ 中学生の保護者、教員を対象とした公開授業と学校説明会を実施し、本校の教育活動の発信と意見集約の機会とする。 ・ 中学生体験入学を8月と11月に実施し、本校の良さをアピールする機会とする。	・ 公開授業と学校説明会では全日制単単位制と企業連携コースの長所が伝わる内容とする。 ・ 中学生体験入学は、本校の特色を明確に伝えられる内容とし、在校生との交流を通して縦のつながりを大切に、生徒募集改善に繋がる効果的な行事にする。
	授業改善	・ ICTを活用した授業展開を研究し、公開授業週間など教員がお互いに授業を参観して、情報交換する機会を設け、授業改善につなげる。 ・ 観点別評価を意識した授業展開を考察する。	・ 各教科や「総合的な探究の時間」にICTを活用し、生徒が主体的に学習できるような授業にする。 ・ 観点別評価の方向性を、学校全体で共有できるようにする。
生徒指導	欠席、遅刻の防止	・ 欠席・遅刻・早退防止キャンペーンを4月・1月に実施し、生徒の意識を高める。 ・ 遅刻0の日・週間を設定し、遅刻した生徒には振り返りシートを用いた個別指導を行う。 ・ 全校集会・学年集会等の機会に、欠席や遅刻の状況を生徒に伝え、特に遅刻防止を訴える。 ・ 「遅刻記録カード」を活用し、不注意遅刻の回数に応じて、段階的指導を行う。	・ 欠席・遅刻の少ない学校生活の意義を生徒に説く。 ・ 遅刻指数1.0未満を目標とすることを年度当初生徒に伝える。 ・ 不注意以外の遅刻が多い生徒に対しても状況に応じて面談の機会を設ける。
	交通安全	・ 外部講師による交通安全講話を12月に実施し、生徒に安全意識を促す。 ・ 通年で立番指導を行い、登下校の自転車運転マナー、通学マナー向上に努める。 ・ 7月・12月にPTST交通安全運動を保護者、教員、生徒が協働で行い、登校する生徒に安全意識を訴える。 ・ 4月・10月に自転車点検を行い、安全管理を徹底させる。 ・ 交通事故報告をもとに状況や危険箇所を生徒に伝え、事故防止を訴える。	・ 交通安全講話後に「振り返りシート」を作成させて、実際の行動に役立てる。 ・ PTST交通安全運動実施後に保護者にアンケートを行い、意見集約をする。
	良好な人間関係の構築	・ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめや人間関係のトラブルの早期発見、早期対応に努める。 ・ 6月・10月・1月に実施する「困っていることの調査」の結果から情報共有・対策・問題解決等を図る。 ・ 問題発生時に、「いじめ・不登校対策委員会」が現場の指導チームと連携する。 ・ 新入生オリエンテーションの中で情報モラル講座を実施し、SNSによる人間関係のトラブルを防止する。	・ 機会を捉えて、生徒に良好な人間関係を構築するための姿勢や行動の持ち方を説く。 ・ 学校生活の中で、生徒が教職員や周囲の友人に大切にされているという実感が持てる環境づくりに努める。 ・ SNS上のトラブルについては事例研究をもとに、防止と解決に努める。
進路指導	主体的学習を促す、進学指導の流れづくり	・ 進路研究と幸田プレゼンタイムを関連付け、3年間を通して、進路目標の明確化・深化を促す。 ・ 高大連携を充実させ、大学との接点を増やすことで、進学意識を高める。	・ 当該学年の協力が不可欠になるので、相談を密に行い、生徒・学年団の実情に合わせた実施を模索する。
	3年間を通じた進学、就職指導計画の見える化及び共有	・ 進学就職それぞれについて、3年間を通じた指導内容を一覧にし、それを共有することで、穴のない、経験によらない、質の高い進路指導を実現する。	・ タブレットの共有フォルダにデータを入れ、全教員がいつでも見られるようにする。
保健相談	心身の健康管理能力の向上	・ 生徒に働きかけ、心身の健康維持・管理・増進に努めさせる。 ・ 心身に問題を抱える生徒を早期に把握し、適切な相談体制で対応する。 ・ 特別に支援が必要な生徒は、個別に支援計画を作成し、学校と家庭の協力体制で臨む。	・ 保健に関する情報、各種検査からの情報を生徒に適正に伝え対応させる。 ・ 朝ST時の健康観察、個人面談、保健室来校時等の情報から問題の早期対応に取り組む。 ・ 問題を抱える生徒の関係者、保護者、SC等と連携し、問題解決に向けた支援計画を示す。
	教育環境の整備・美化	・ ごみの分別、減量化、清掃の徹底を図り、校内美化を推進する。 ・ 教室内整備、ワックスがけ、除草作業等を通して、生徒の環境美化意識を高める。 ・ 校内諸施設の状況を把握し、安全な環境づくりを進める。	・ 通常清掃の要領を周知し、清掃道具の管理を十分に行う。 ・ 平素からの教室内美化に努めるよう訴える。 ・ ワックスがけ、除草作業の徹底を図る。 ・ 月一度の安全点検、安全衛生委員会の提案から問題点を把握し的確に対応する。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
特別活動	生徒会行事の活性化と地域連携	・各種行事において生徒による運営を強化し、生徒同士で協力する体制を整えるよう促していく。また、地域ボランティアに積極的に取り組み、地域の活動を支援する。	・生徒会による行事に設置された実行委員会を、より強化し、生徒たちで企画、全生徒で運営ができるようにサポートする。
	部活動の活性化	・他校、中学校などとの交流を深め、部活動に参加している責任感と、自己肯定感を養う。また、他の部活動に対しての理解を深め、互いに高め合える関係を構築させる。	・練習試合・公式戦・発表会のほか、中学生に向けた部活動見学を精力的に実施し、幼保小といった外部との交流を可能な限り実施する。
第1学年	基本的な生活習慣の確立	・挨拶、返事、言葉遣い等の礼儀作法や身だしなみに関する指導を継続する。 ・時間に対する意識を高めるために、提出期限や5分前行動を徹底させる。	・新入生オリエンテーションを通して、定着を図り、それを持続させていきたい。 ・日頃からの生徒との関わりの中で指導を行い、その重要性を理解して自ら進んで行動に移すことができるようにしていく。
	進路選択と学習習慣の確立	・自らの適性、志望に応じた進路目標を定められるように進路に関する情報提供をする。 ・授業にしっかりと取り組ませると共に、家庭学習習慣を身につけさせるために適切な質と量の課題を出す。	・進路ガイダンス等の行事以外にも学年集会で進路選択に関する話題を取り入れる。 ・生徒との面談機会を多く設け、生徒の主体性を引き出すような声かけを積極的に行う。
第2学年	社会で通用する力を身につける	・挨拶、身だしなみ、期日を守るなどの礼節を身につけさせる。 ・高校生らしい規則正しい生活を身につけさせ、安易な遅刻・欠席・早退をさせない。 ・授業規律を大切にする。	・履修状況報告や面接週間や学習生活記録を活用し、生徒の生活状況を把握する。担任会や学年会で生徒情報を共有することで、教員同士の連携を密にして学年全体で指導する。
	進路選択と学習習慣の確立	・総合的な探求の時間を活用し、進学コースではオープンキャンパスや学校研究についての調べ学習を、総合コースではインターンシップを中心とした社会体験学習を行う。 ・習熟度別の学習を取り入れ、各自の目標や学力帯に適する指導を行う。	・将来の社会生活について具体的なイメージを持たせることを目標とする。 ・進学コースと総合コースで計画を立てたうえで実践する。その際、担任会・学年会で常に情報を共有する。
第3学年	社会人としての生活習慣を身につける	・ビジネスマナーの授業を通して、就職希望者を中心に挨拶や身だしなみを整えさせる。キャンペーンを通して、学年をあげた取り組みに発展させる。 ・時間を守ることを徹底させ、生徒指導部の定める段階的指導を通じて、欠席・遅刻・早退を無くしていく。	・室長を指導し、始業・終業の挨拶を徹底させる。さらに、職員室への入室指導を行い、あらゆる場面でしっかりと挨拶を意識させる。 ・課題の提出について居残り指導を行うなど、提出物の期限を守らせるようにする。
	進路実現に向け、必要な学力を獲得する	・放課の時間を使った自主学習を促し、学習に集中させる。 ・各種募集要項を廊下に展示し、進路に対する意識を高める。 ・習熟度別の学習を取り入れ、各自の目標や学力帯に適する指導を行う。	・昨年度、インターンシップ等が中止となった。また、オープンキャンパスにも参加できていない者が多い。進路指導室を含め、進路実現に向けて自ら調べていけるよう情報提供を行っていく。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		・アクティブラーニング導入等による授業改善をする。 ・教育活動全般でキャリア教育活動を推進する。 ・誰もが行きたくなる学校づくりのため、地域連携に努め、「チーム幸田高校」を形成する。 ・勤務時間の適正な管理を行い、長時間労働における健康障害の防止を図る。	